

日時：2020年4月4日（土）14時～16時45分 Web 会議（Zoom システム）

参加者：伊藤 眞（理事長）、縣 公一郎（副理事長）、浅田 和茂（副理事長）、西川 伸一（副理事長、関西支部長）
広渡 清吾、岡林 洋、高橋宗五、高山 佳奈子、居城 邦治（北海道支部長）、高橋 輝暁、種村 眞幸
鏝田 武志、伏木 信次、河野 俊行（九州支部長）、須田 利美（東北支部長）、関 映子（事務局）

審議事項

（1）2020 年度総会について

1）総会および2）懇親会（6月6日（土）京都府立医科大学）の開催について

- ・京都府立大の現状について、伏木常務理事からの報告を受け、新型コロナウイルスの今後の感染拡大状況および終息の見通しも立たないことを踏まえて、6月6日（土）京都府立医科大学図書館ホールで予定されていた対面形式による総会、懇親会は中止することとなった。総会での承認事項などの案件もあることから、総会の審議事項等を本協会 HP の会員ページにアップし、期限を設けて会員からの意見聴取を行う方式とすることも了承された。
- ・会員ページにアクセスできない会員については、本人からの問い合わせにより、事務局より再度 ID 番号とパスワードを連絡する。

3）留学説明会（6月6日（土）京都府立医科大学）の開催について

- ・新型コロナウイルスに関する日本国内の現状、およびドイツの現状（留学生を受け入れる状態にない大学もあるなど、ドイツ側の受け入れが不確実な状況）に鑑み、従来の方式による留学説明会は実施しない。
- ・今後の留学説明会の実施については、新型コロナウイルスの感染状況などを注視し、改めて検討するすることになった。

<留学説明会についての意見交換>

- ・関西支部では、秋の留学説明会の計画もあるが、新型コロナウイルスの状況が見通せないことから実施については未定。従来の留学説明会の方式とは異なる形態も検討している：これまでのように、ポスターなどを活用し、幅広い参加者を対象に実施するのではなく、Humboldtianer を多く輩出している大学にターゲットを絞り、当該大学の Humboldtianer からフンボルト奨学金応募候補者に関する情報を交換し、参加者を絞ったかたちで留学説明会を実施すること等を検討している。
- ・人文系は Humboldtianer の絶対数が少なく、理系、他の文系（社会科学系、法学系など）と異なり、研究が個人単位であるなど、複数講座のネットワーク化による留学希望者の発掘が期待できない事情がある。従って、留学説明会では、理系、他の文系の説明担当者からも人文系の情報提供、人文系留学希望者への対応に協力願いたい。
- ・関東甲信越支部では、DAAD とも協力し、新型コロナウイルスの今後の感染状況を注視しながら、上智大学四谷キャンパスでドイツ留学説明会（10月24日）を計画中である。

4）Lepel 駐日ドイツ大使のご招待について

- ・理事長より、総会へのご招待し、総会への出席を前向きに検討していた Lepel 大使に対し、総会、懇親会は中止となったことを、理事長から大使に連絡する。（Lepel 大使には、常務理事会終了後、メールで連絡済み）

（2）日独共同研究奨学金について

1）2020 年度の応募状況

- ・西川選考委員長より、募集は3月31日で締め切り、応募は文系4件であった旨の説明があり、選考委員会を立ち上げ、審査に入ることが承認された。

<意見交換>

- ・本奨学金は、ドイツ研究者が来日し、日本人 Humboldtianer と共同研究する趣旨であるが、2020 年度来日できない場合はどう対処するのか？
 - － 2020 年度の共同研究開始は本年 9 月から 1 年間であり、新型コロナウイルスの今後の感染状況に応じて柔軟に対応する。

2）2019 年度奨学金授与式について（報告）

- ・1 件目の Lee 博士と田中 慎教授には昨年 9 月 12 日に授与式を実施した。
- ・2 件目の Varga 博士と赤木 剛朗教授については、Varga 博士の来日に合わせ 2020 年 3 月 2 日を

予定していたが、新型コロナウイルスのため、Varga 博士が来日できなくなるという、止むを得ない事情であるため、赤木教授に奨学金（50 万円）を送付し、赤木教授から Varga 博士に転送してもらう方式とした。

3) 奨学金基金の会計状況について

- ・伊藤理事長から会計の現状について説明があり、審議の結果、以下を決定した。
- ・募金期間終了後の 10 月 1 日以降の寄付 174,000 円については、本募金開始時の趣旨に従い、6 分の 5 を奨学金基金に、6 分の 1 を財政安定化基金に組み入れることになった。
- ・本協会の財政安定化のために、今後も寄付を受け入れるが、これまでの募金口座を閉じ、現在の口座名称を、例えば「日本フンボルト協会寄付口座」に変更することが了承された。

4) 2021 年度用の実施要綱の改訂について

- ・日独共同研究奨学金実施要綱について、ドイツ・フンボルト財団から実施要綱第 8 条（審査基準）「選考委員会規程（内規）に定める」という記述について、審査基準が明記されていないのは、審査の透明性について、応募者に疑念をいだかせる可能性があるなどの指摘を受け、審議の結果、以下を決定した。
- ・審査基準については、日独共同研究奨学金実施要綱第 7 条（申請書類）に、具体的に明記されている。一方、第 8 条（審査基準）にある「選考委員会規程」は主に審査の具体的な手続きに関する規程である。従って、第 8 条の（審査基準）を（審査実施手続き）などの名称に変更し、ドイツ語版もこれに応じて改訂する。

(3) 本協会未加入 Humboldtianer の会員登録の件について（別添資料 5）

- ・事務局より未加入者についての現状報告があり、依然として入会希望者がごく少数にとどまっている現状を踏まえ、審議の結果以下の点が確認された。
- ・今後は、フンボルト財団から奨学金を授与された時点で、日本フンボルト協会会員となることを、奨学金給付者に認識してもらうために、入会のお願いではなく、振込用紙等会費納入依頼を送付するなどの踏み込んだ対応が必要である。
- ・各支部でも、会費納入率を向上させるように活動を活発化するとともに、事務局からの会費納入依頼の際には、理事長のみならず、支部長からも支部活動報告等を送付し、本協会活動に理解を得るようにする。

<関連意見>

- ・未加入者については、常務理事からも必要に応じ、個別に入会を促す。
- ・退会については、事務局への自己申告による。
- ・賛助会員については、規程上、正会員 2 名の推薦とともに総会での承認が必要となるので、推薦人としての対応依頼があれば協力いただきたい。

(4) 支部活動報告

(北海道支部)

- ・協会未加入、北大 5 名の Humboldtianer については支部からもフォローする。

(東北支部)

- ・2019 年 10 月 12 日に支部総会を予定していた。しかし、台風 19 号のため支部総会が開催できず総会関係の支出は無し。HP 維持費が若干必要な程度である。繰越金を活用することで、2020 年度は支部助成金を申請しない意向。
- ・2019 年 10 月に東北大主催で、ドイツ留学説明会を、DAAD と共催で実施したが低調であった。他の支部での留学説明会の資料、開催の仕方についてアドバイスを願いたい。
⇒事務局から資料等を送付する。

(関東甲信越支部)

- ・2020 年 3 月 14 日に富山県赤坂会館で総会、講演会を予定していたが、新型コロナウイルスのため中止。講演会の開催も凍結状態（来年の総会に持ち越しもあり得る）。
- ・2020 年 10 月 24 日に上智大学で留学説明会を計画中。今年度の支部助成剰余金 10 万円は留学説明会にかかる費用に充てる予定。HP を開設準備中。

(中部支部)

- ・2019 年度支部幹事会（2019 年 5 月 10 日）、支部総会・懇話会・懇親会（2019 年 6 月 29 日）、中部支部留学説明会（2020 年 1 月 25 日）を実施。支部助成金はこれらの開催と旅費で使用した。

(関西支部)

- ・2020 年 2 月 23 日に関西支部総会、講演会、理事会を実施。懇親会は中止。支部助成金は HP 費用

で一部を使用。秋に留学説明会の計画もあるが未定。Web 講演会も検討はしているが、多数が集合する対面のイベントの実施は困難な現状。(関西支部 HP について、至急アップデートをするよう依頼があった)。

(中四国支部)

- ・地域柄活動が難しいので工夫が必要。支部助成金は旅費として使用した。

(九州支部)

- ・2020年2月7日に DAAD 元奨学生と合同で総会、講演会を実施。支部助成金はその通信費、旅費の補助等として使用。今年度は留学説明会も実施したい。
- ・会員が広範囲で活動がなかなか難しい。

(5) 本協会ロゴについて

- ・伊藤理事長より、現時点での原案モデル2点について提案され、意見交換を行った。他にも候補があれば随時、提案することが確認されたが、まずはこの2案について、事務局からデザイナーに作製依頼をすることとなった

<関係する意見>

- ・このモデル案をそのまま使用すると著作権に抵触する懸念がある。
- ・銅像ならこちらで写真を撮って使っては？—公共機関の所有物では使用の許諾が得られやすいと予想される。許可されれば使用可能。

(6) 本協会の会計について

- ・高橋宗五会計担当常務理事から、現時点での会計状況について報告があり了承された。2019年度決算は赤字。次年度繰越金129万円。6月の総会に合わせて2020年度予算を策定する。

(7) その他

1) Vertrauenswissenschaftlerin について

- ・高山佳奈子常務理事が、2020年2月にフンボルト財団の Vertrauenswissenschaftlerin (学術参与) に正式に指名されたことが理事長から披露された。

2) 協会監事について

- ・総会時に2名の監事による会計監査報告が必要となるが、神林監事(関西支部)の後任の選任が遅れているため、6月の総会では、吉川監事1名による会計監査となる予定。また、協会監事1名が常態化するのには好ましくないとの判断から、審議の結果、関東甲信越支部から監事候補者を速やかに選定し、6月の総会で承認を得る手続きに入ることが承認された。

3) 次回の常務理事会日程について

- ・当初、総会、理事会、常務理事会が予定されていた6月6日(土)の14時~17時、今回と同様 Zoom システムによる web 会議とする。主催者(ホスト)は事務局とする。
- ・理事会についても、Zoom 会議とする。

<Zoom についての情報・意見交換>

- ・Zoom を今後利用するのであれば、100名規模で2000円程度/月なので、ライセンス契約してはどうか。⇒事務局で購入する方向で検討。
- ・Zoom は100名まで問題なくインタラクティブで会議が可能。まずは最も簡便なもので契約してはどうか。
- ・Zoom ビジネスと Zoom プロの違い: プロは個人向け。ビジネスは10名以上のホストを抱える中小企業対象。フンボルト協会ならプロで十分。プロでも共同ホストを立てることも可能。レコーディングも可能。別途料金を支払えば議事映像録画も可能。
- ・Zoom には挙手という機能もあるので、それを使うと主催者が挙手者を指名できる。但し、挙手の機能が使えないこともあるので、チャットを併用して質問の方がベター。
- ・総会も Zoom でできそうだが、web 環境によって参加ができない会員がいるのであれば、総会には Zoom は適さない。
- ・事務局(関さん)が契約し、各支部が Zoom 会議を使用することは可能か?—ホストを各支部世話役に移譲することは可能。ホストが入らなくてもメンバーが入れるような設定にしておけば大丈夫。自動レコーディングになる。
- ・Zoom 会議では、長時間画面を見つめることにより目が疲れるので適宜、休憩を入れる工夫が必要。
- ・本常務理事会後、Zoom は脆弱性による web 会議攻撃などが発生しているとの情報があり、理事長と協議した結果、導入については Zoom 側の対応状況を注視し改めて検討することになった。

(以上)